

第 63 回秋季大会
留学生ワークショップ報告
国際学術交流促進委員 室田 信一(首都大学東京)

学会のグローバル化を促進する目的で、昨年の秋季大会から国際学術交流促進委員会の企画として留学生のためのワークショップを開催することになりました。

今年度は、「留学生の強みを生かした国際比較研究」というテーマで、留学経験者による基調講義とグループワークを行いました。

基調講義では、同志社大学助手の郭芳先生が「博士論文研究からみた国際比較研究の面白さと難しさ」というタイトルでご講義くださいました。中国出身の郭先生は、中国農村部の中間層高齢者にとって介護サービスが不足しているという問題意識から、日本の地域福祉サービスを参考に、中国における村宅老所のあり方について検討を行い、博士論文を執筆されました。なお、この博士論文研究を基にした著書が、今大会の学会賞著書部門を受賞されたことも重なり、参加者は郭先生の講義に高い関心を示していました。

続いて、小グループに分かれてグループワークを行いました。グループワークでは、各自の国際比較研究の経験や関心を共有した上で、研究推進上の困難や、留学生の強みを生かした研究の進め方について意見交換をしました。最後のまとめの中でグループから出された意見の中には、留学生が大学院で研究を推進するためのサポートとして、各大学が学部の授業を聴講する機会を提供する必要性や、国際比較研究を推進するための経済的支援の必要性などについて言及するものがありました。

昨年度と比較して参加者が減少したことは残念でしたが、参加者からは今後も継続して開催して欲しいという声がありました。本委員会として、このような意見を参考に、今後も留学生のサポートを強化して、学会のグローバル化を推進し、そのことが日本の研究水準の向上につながるように企画を進めていきたいと思えます。

本学会が、留学生の学びや成長に貢献できるように、また留学生が活躍できる場になるように、次回はより多くの留学生および留学経験者の参加を期待します。また、留学生以外の学会員の参加や支援をお願いします。